多変量解析の研究と社会人教育

中央大学名誉教授 創価大学客員教授 杉山高一

私の多変量解析等の研究については、1頁という制約のもとで書くのはたいへん厳しいので、2012年3月開催の日本数学会における「多変量解析のフロンティア」という1時間の講演のパワーポイントと予稿集
統計科学研究所(http://www.statistics.co.jp/)・**学習等参考資料**　研究講義資料
を参照下さい。

研究歴については、1965年修士修了と同時に青山学院大学理工学部実験講師として奉職し、田口玄一先生と同じ研究室になりました。4年間勤めましたが、その間2年間、アメリカへ研究留学しました。Colombia大学(Prof.T.W.Anderson)で1年間Purdue 大学(Prof.K.C.S.Pillai)で6か月、North Carolina 大学(Prof.N.L.Johnson)で7か月、多変量解析の固有値、固有ベクトルの分布論の研究をして過ごしました。その後、日本で半年ほど勤務し、ゾーナル多項式の歴史的論文を書いたProf. Alan T. James(Adelaide 大学)に招かれ、続けての研究をしました。倉敷市の川崎医科大学助教授を経て、34歳のときに文科省・統計数理研究所、研究指導普及室・室長として赴任し、6年間、統計相談等で社会人と接しながら過ごしました。同時に統計数理研究所の養成所で社会人への統計教育を経験しました。これが私の社会人教育の始まりです。 1980年から30年間、中央大学理工学部数学科の教授として、統計数学の授業を担当しましたが、2年で統計数学第一(2単位)、第二(2単位)、3年で統計数学第三(4単位)、第四(4単位)と大学では順を追って学びます。たいへん楽に教えることができます。　私は2010年3月に中央大学を退職してから本格的に社会人教育に取り組んで5年目になります。社会人に教えている科目は「統計データ分析Ⅰ＆Ⅱ」「多変量データ解析Ⅰ、Ⅱ、＆Ⅲ」等で、1日7時間を単位に教えてきました。分析Ⅰ、Ⅱの科目はそれぞれ2日間、その他は1日を単位で教えています。社会人の統計学に関する知識はまちまちです。理系の方は2,3割、あとは文系です。大学で統計学を勉強した方々でも、内容をほとんど忘れています。数学的な知識も大きな差があります。そして大学との違いは、講義科目は順を追ってではなく、レベルに関係なく、関心のある科目を選んでくることです。参加する方々の仕事も、学歴も、学ぶ目的も幅広く統計学の奥行きの深さを感じる日々です。統計学を学びに遠くは九州や北海道から、飛行機を利用して日帰りで参加してきます。少人数を原則として、各自の関心事を把握しながら、貴重な時間を使い楽しく学んだと思って頂くように丁寧に教えています。私は教えることの難しさをと面白さを感じながら、日々精進しています。

余談になりますが、大学2年のとき真壁 肇先生の数理統計学の講義(必修科目)を受けて、私は統計学をとても面白いと感じました。真壁ゼミの卒業研究はORでした。大学院は津村善郎先生の指導を受けましたが、統計学を専攻する切掛けは学部で受けた真壁先生の授業です。今も学部での授業の大切さを感じながら大学で教えています。